



2液型弱溶剤フッ素樹脂塗料

パラサーモ外壁用F

2液型弱溶剤シリコン樹脂塗料

パラサーモ外壁用Si

2液型弱溶剤ウレタン樹脂塗料

パラサーモ外壁用U



日本特殊塗料では、トータル遮熱システムを提案します。

省エネに寄与すべく、発売から20年以上の実績のある

高日射反射塗料「パラサーモ」シリーズを外壁塗料に応用しています。

外壁工法は太陽光からの赤外線を反射することによって、外壁の温度上昇の抑制効果が期待されます。



優れた遮熱性

●遮熱性能試験

試験室室内にて当社一般外壁用塗料(色:R-810)エポラオールプライマー仕様とパラサーモ外壁用Si(色:R-810P)のエポラオールプライマー遮熱ホワイト仕様を施工したスレート板に200Wレフランプを照射し表面温度と試験板裏面温度を測定しました。

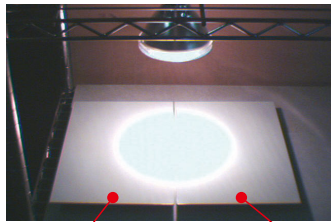
試験板裏面温度で約13℃の差が認められました。

●サーモグラフィーによる温度変化

(赤外線カメラ：日本アビオニクス(株)製TVS-200にて測定)

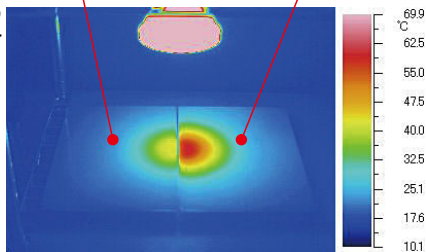
基材：厚さ3mm スレート板 200Wレフランプ照射
塗板との距離：25cm

●レフランプ照射遮熱試験風景

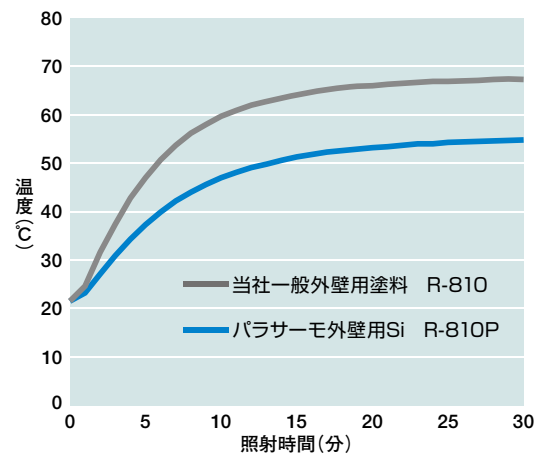


パラサーモ外壁用Si 塗装面
一般アクリルシリコン樹脂塗料 外壁用塗装面

●塗装面の温度分布



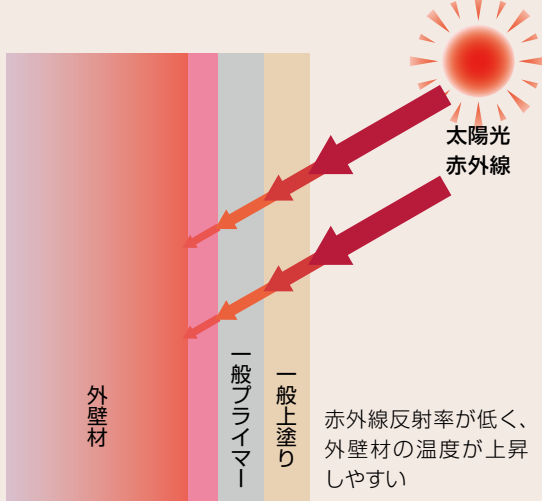
●試験板裏面温度測定



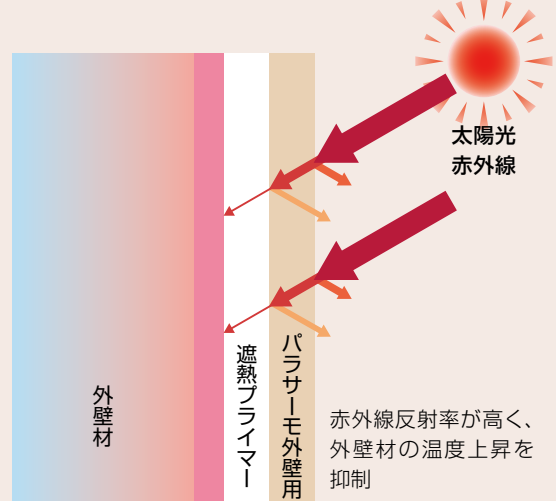
●試験結果は試験室条件下での試験条件により変化します。この試験は遮熱効果を確認する試験であり実現場での表面・裏面遮熱効果を保証するものではありません。

●**ご注意**:遮熱(温度低減)効果は色相により異なります。施工予定の色より既存塗膜が淡彩色の場合、十分な効果が得られないケースもございますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所にご確認ください。

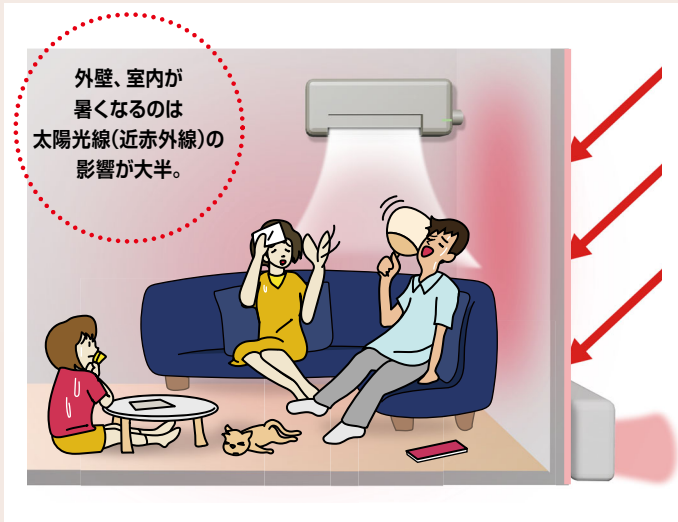
●従来工法



●パラサーモ外壁工法



遮熱について



※イラストはイメージ図です。

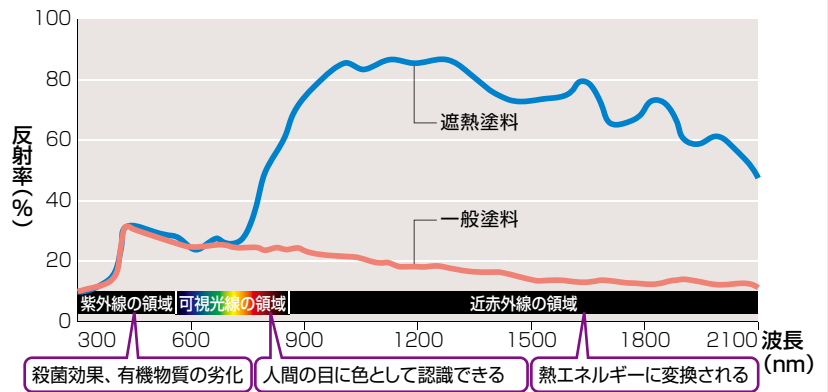
太陽光線の中でも赤外線は物体にあたることで、熱エネルギーとなり物体が熱をもちます。

「パラサーモ外壁用」シリーズは赤外線反射率の高い着色顔料や熱放射に優れた顔料を使用し、熱エネルギーへの変換を抑制することで、外壁材の温度上昇を軽減します。

外壁の東西面は高い日射エネルギーを受けやすく、特に夏の西面の外壁の表面温度は高くなり、これにより壁から内部に伝わる温度も高くなります。

●遮熱塗料は太陽光の赤外線を効率よく反射させ、建物の表面温度上昇を抑制させる塗料です。上記表は、遮熱塗料と一般の同一色の塗料の各波長ごとの反射率を表したものです。反射率や遮熱効果は色により異なります。

●遮熱のメカニズム(色相：N-70相当)



2 優れた耐久性

優れた耐久性

パラサーモ外壁用を構成する樹脂は、それぞれ高性能樹脂を使用し、全グレードにラジカル制御技術を採用しています。従来品より更にグレードアップした耐久性を実感いただけます。

●塗り替えサイクルコスト比較

同じ塗料を使用して20年間メンテナンスすると仮定した場合の塗り替えサイクルコストのイメージです。



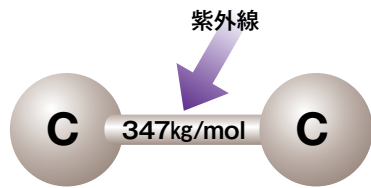
- 期待耐用年数は次回塗り替えまでの推奨年数(目安)で、促進耐候性試験や屋外曝露結果をもとに塗膜の劣化速度を一般的な環境下で想定した年数です。
- 期待耐用年数は建物の立地環境や施工、施工環境などにより変わります。塗膜の耐久年数を保証するものではありません。
- 塗膜の劣化速度は一般的な環境下を想定しております。
- 足場代などの付帯費用は考慮していません。
- 塗装仕様などにより、実際のトータルコストやコスト比率は変わります。

特長 3

高機能樹脂の採用

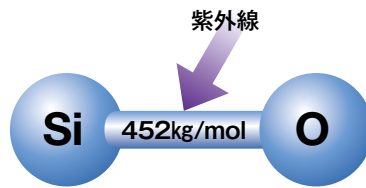
●パラサーモ外壁用U

従来のアクリルウレタンに高機能樹脂をハイブリッド化



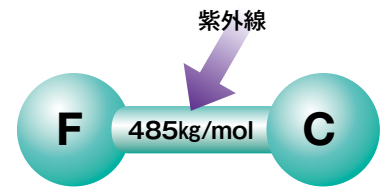
●パラサーモ外壁用Si

高い分子結合エネルギーをもつシリコン樹脂を使用



●パラサーモ外壁用F

より高い分子結合エネルギーをもつフッ素樹脂を使用



●結合エネルギーの数値は平均値であり、構造により異なります。

特長 4

独自のラジカル制御

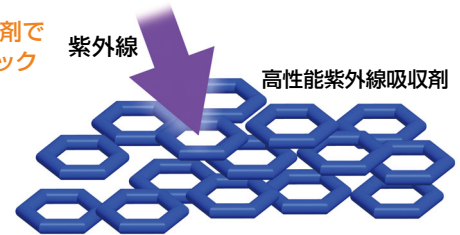
●ラジカル制御とは

ラジカルとは塗膜に含まれる「酸化チタン」や樹脂に紫外線や酸素、水分が当たることで発生する活性種で、塗膜の劣化を促進させます。

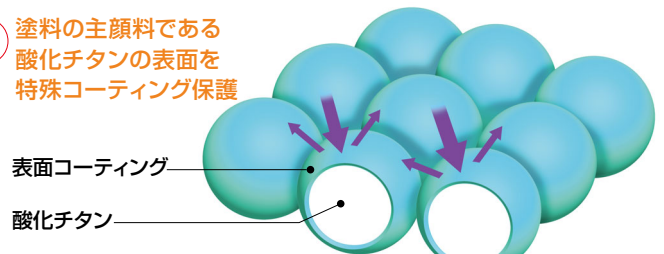
パラサーモ外壁用シリーズは、航空機用塗料で培った独自の技術により、まず、ラジカルの発生原因である紫外線の大半を高性能紫外線吸収剤で吸収し、次に、すり抜けた微量の紫外線によって発生したラジカルを光安定剤で補足して無害化します。

さらに「酸化チタン」には、表面処理がされており、紫外線から防御する三段階のラジカル制御技術を採用しています。

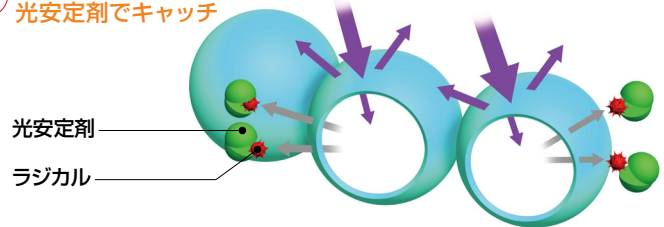
① 高性能紫外線吸収剤で紫外線を吸収ブロック



② 塗料の主顔料である酸化チタンの表面を特殊コーティング保護



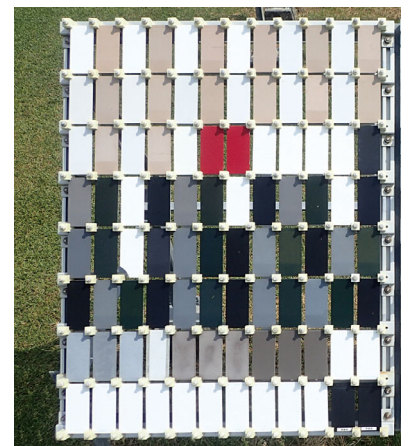
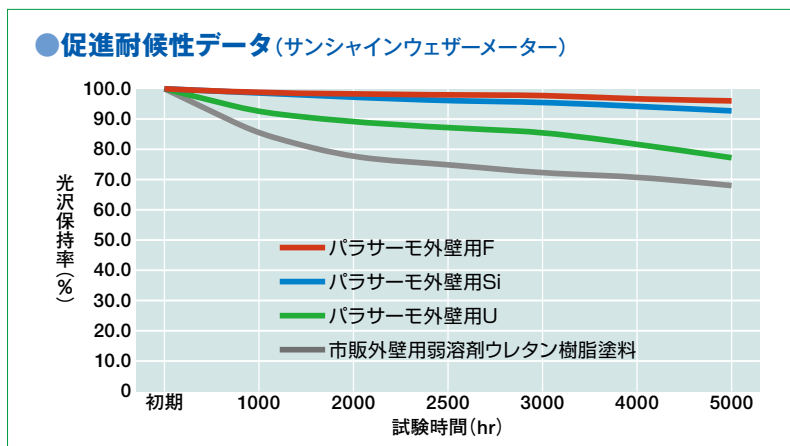
③ 酸化チタンや樹脂の劣化で発生したラジカルを光安定剤でキャッチ



特長 5

耐候性試験

当社では、促進耐候性と国内6か所の屋外暴露により耐候性試験を繰り返し、日々塗料の高耐久化に努めています。



▲一般社団法人 日本ウエザリングテストセンター 宮古島曝露試験場

特長 6

優れた防かび・防藻性

防かび・防藻塗料の配合技術を応用することにより、長期にわたって、かびや藻から外壁を保護します。

用途

- コンクリート、モルタル、金属面の外壁
- スレート、窯業系サイディングボード、無機系ボード
- PC板、コンクリートパネルなどの外壁
- 複層仕上げ塗材の外壁



製品構成

用途	製品名	色	荷姿・容量	成分組成	
下塗り	窯業用下塗り 金属用下塗りI	エポラオールプライマー	遮熱ホワイト※① ・グレー ・赤サビ ・黒サビ	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg、B液:0.5kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ) 2液弱溶剤エポキシ樹脂
		エポラ浸透遮熱プライマー	淡グリーン (カラークリヤー)	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
	窯業用下塗り	エポラマイルドプライマーS	クリアー	28kgセット(A液:14kg、B液:14kg) 14kgセット(A液:7kg、B液:7kg)	2液弱溶剤エポキシ樹脂
		金属用下塗りII	エポラ#1プライマーN	グレー	16kg
	エポラ#1遮熱プライマー		淡ブルー	1液弱溶剤エポキシ樹脂(遮熱タイプ)	
	金属用下塗りIII	エポラ#3プライマー	ホワイト	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg)	2液溶剤エポキシ樹脂
金属用下塗りI	NT金属用プライマー ECO	赤錆	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg) 3.3kgセット(A液:3kg、B液:0.3kg)	環境配慮型2液溶剤エポキシ樹脂	
下塗り兼中塗り	既存塗膜がある 窯業用下塗り	シルビアサーフ ※②	ホワイト系	16kg	特殊アクリル樹脂 下塗り中塗り兼用
上塗り ※③	パラサーモ外壁用U	標準色 (特注色不可)※④ (艶調整不可)	15kgセット(A液:13.5kg、B液:1.5kg)	2液弱溶剤ウレタン樹脂	
	パラサーモ外壁用Si	標準色 (特注色可)※⑤ (艶調整可)	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg)	2液弱溶剤シリコン樹脂	
	パラサーモ外壁用F	標準色 (特注色可) (艶調整可)※⑤	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg、B液:0.5kg)	2液弱溶剤フッ素樹脂	
希釈剤 シンナー	NT塗料用シンナーA	—	16ℓ	—	
	エポラ#3シンナー	—	16ℓ、4ℓ	エポラ#3プライマー用	
	NTエポキシシンナーECO	—	16ℓ、4ℓ	NT金属用プライマーECO用	

※①:遮熱タイプのため割高になります。

※②:シルビアサーフは既存塗膜がない場合は、下塗りの施工が必要となります。

※③:パラサーモ外壁用Siとパラサーモ外壁用Fには弾性B液の2kgも取り揃えています。

※④:パラサーモ外壁用Uは特注色及び艶調整は対応していません。

※⑤:パラサーモ外壁用Si、パラサーモ外壁用Fの特注色は淡彩色及び中彩色が対応可

能です。艶調整は標準色の5分艶有り、3分艶有りのみ対応可能です。

特注色については、通常調色より時間がかかりますので、納期等については最寄りの営業所に確認をお願いいたします。

●2液の塗料を調合する際は、製品容量(A液、B液)の重量を調合比としてください。

■各下塗りの適用下地

●窯業用下塗り	コンクリート、モルタル、スレート、窯業系サイディングボード、無機系ボード、PC板、コンクリートパネル
●金属用下塗りI	カラートタン、トタン、ガルバリウム鋼板、アルミ板、ステンレス鋼板
●金属用下塗りII	カラートタン、トタン
●金属用下塗りIII	ガルバリウム鋼板、アルミ板、ステンレス鋼板

標準塗装仕様書

●上塗り塗替え・遮熱仕様[既存塗膜有り]

●上塗りの仕様

工程	製品名	材料の割合 (重量比)	塗り 回数	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ²)	1セット当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率)
上塗り	●パラサーモ外壁用U	A液 13.5kg B液 1.5kg	2回	●刷毛 ●ローラー ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	93~100m ²	3時間以上 72時間以内	●NT塗料用シンナーA (刷毛・ローラー:0~5%)
	●パラサーモ外壁用Si	A液 14kg B液 2kg					100~123 m ²		
	●パラサーモ外壁用F								

●パラサーモ外壁用U、パラサーモ外壁用Si、パラサーモ外壁用Fは、夏季は暑さで可使時間が短くなり2時間程度になります。
夏季はA液とB液の攪拌後、必ず「2時間以内」に使い切るようにしてください。

●コンクリート・モルタル・窯業系サイディングの塗替え遮熱仕様[下地の劣化が激しく、吸い込みが大きい場合]

工程	製品名	材料の割合 (重量比)	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1セット当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
下塗り	●エポラ浸透遮熱プライマー	A液 14kg B液 2kg	●刷毛 ●ローラー ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ²	3時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは上記「上塗りの仕様」をご参照ください。						

※吸い込みが著しい下地の場合、施工間隔をあけて2回塗りしてください。

●コンクリート・モルタル・窯業系及び金属系サイディング、 金属系下地(カラートタン、ガルバリウム鋼板、アルミ板)の塗替え遮熱仕様

工程	製品名	材料の割合 (重量比)	施工方法	可使時間 (23℃)	使用量 (kg/m ² /回)	1セット当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)
下塗り	●エポラオールプライマー遮熱ホワイト	A液 14kg B液 2kg	●刷毛 ●ローラー ●スプレー	6時間以内	0.13~0.16	100~123 m ²	3時間以上 72時間以内
上塗り	●上塗りは上記「上塗りの仕様」をご参照ください。						

●エポラオールプライマーは多少の吸い込みに対応できるように顔料を少なく設計しています。このため、施工方法や使用量、希釈量、下地の状態によりムラに見える場合があります。特に窯業系下地で塗料が下地に多く吸い込まれる場合、隠ぺい性が悪くなります。
●ガルバリウム鋼板の補修塗り、下塗りにはエポラ#3プライマーもご使用いただけます。
●新設のガルバリウム鋼板は油分が付着している場合がありますので、脱脂と目直しを行ってください。
●無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

●コンクリート・モルタル・窯業系サイディング・塗替え仕様[シルビアサーフ ウールローラー工法]

工程	製品名	施工方法	使用量 (kg/m ²)	1缶当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率)
下塗り	●シルビアサーフ16kg	●刷毛 ●中毛ローラー	0.3~0.5	32~53 m ²	16時間以上 72時間以内	●水 (中毛ローラー:0~10%)
上塗り	●上塗りは上記「上塗りの仕様」をご参照ください。					

●下記仕様の注意事項をお読みください。

●コンクリート・モルタル・塗替え仕様[シルビアサーフ 大波工法]

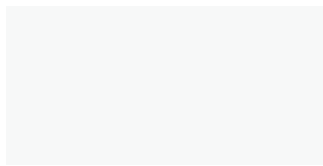
工程	製品名	施工方法	使用量 (kg/m ²)	1缶当たりの 塗り面積	施工間隔 (23℃)	希釈剤 (希釈率)
下塗り	●シルビアサーフ16kg	●刷毛 ●砂骨ローラー	0.8~1.5	10~20 m ²	16時間以上 72時間以内	●水 (砂骨ローラー:0~3%)
上塗り	●上塗りは上記「上塗りの仕様」をご参照ください。					

●既存塗膜が無くコンクリート、モルタル面に施工する場合は「NT水性カチオンプライマー」などの下塗りをご使用ください。「NT水性カチオンプライマー」と一般の水性塗料を混合しますとゲル化、ブツ発生などの原因となります。施工の前には、使用器具を水で十分に洗浄してください。下塗りについてご不明な場合は最寄りの営業所にお問い合わせください。

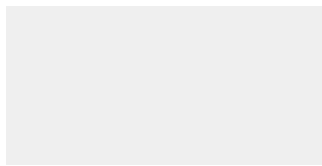
●既存塗膜が無い金属面には、「エポラオールプライマー」などのエポキシ樹脂系さび止めプライマーを使用してください。
●上記シルビアサーフを使用する仕様の場合、シルビアサーフの使用量が少ない(塗膜が薄い)とリフティングの原因になります。

標準色(32色)

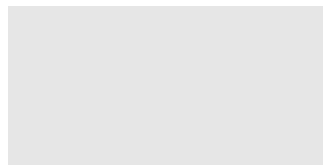
パラサーモ外壁用F パラサーモ外壁用Si パラサーモ外壁用U



▲R-801P



▲R-802



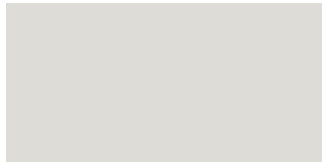
▲R-803



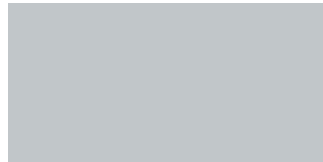
▲R-804P



▲R-805P



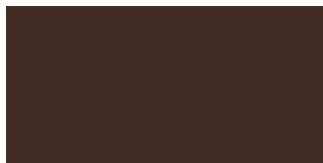
▲R-806P



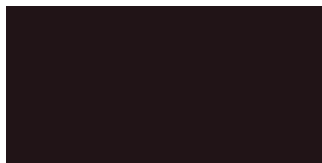
▲R-807P



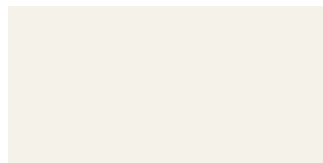
▲R-808P



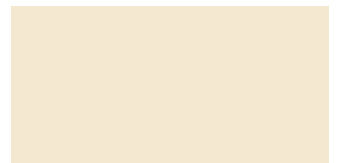
▲R-809P*



▲R-810P*



▲R-811



▲R-812



▲R-813



▲R-814P



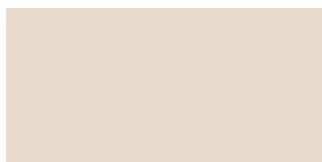
▲R-815P



▲R-816



▲R-817



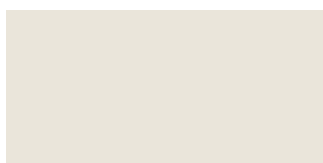
▲R-818P



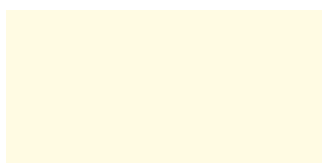
▲R-819P



▲R-820P



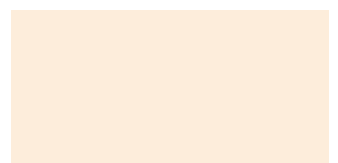
▲R-821P



▲R-822P



▲R-828P



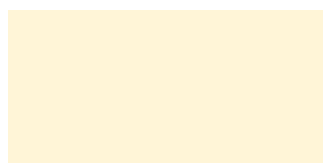
▲R-829P



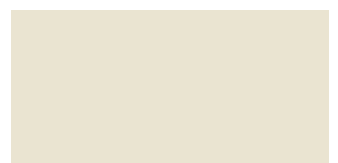
▲R-834P



▲R-839P



▲R-840P



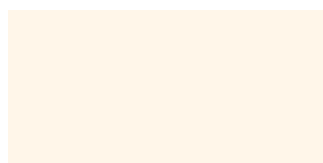
▲R-841P



▲R-843P



▲R-845P



▲R-847P



▲R-849P

- 色相は「EXTERIOR COLOR SAMPLE」(改訂第2版)をご参照ください。
- 特注色については、4ページの「製品構成」及びその下段の※⑤をご参照ください。
- 遮熱効果は、色相により異なりますのでご注意ください。詳細は最寄りの営業所までお問い合わせください。
- パラサーモ外壁用シリーズは特殊な顔料を使用しており、膜厚や標準以上の希釈量では色目が少し変わります。ご注意ください。
- ※印の色は濃色につき、割高となります。

..... ニットクの外壁用遮熱塗料パラサーモ外壁用シリーズの施工上の注意事項

■遮熱性能について

- 遮熱性能は、明度と色相により変わります。既存塗膜の色が塗り替え予定の色より薄い場合、遮熱効果が得られない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 建物の形状、構造、基材(素材)や既存塗膜の明度と色相によっては十分な遮熱効果が得られず室内温度低減効果が期待できない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 無塗装ガルバリウム鋼板は、素材自体が優れた熱反射性を持っています。無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 一般外壁用塗料とパラサーモ外壁用塗料との日射反射率の差は、濃色の同色であると大きくなる傾向があります。色相に一部例外があるため、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱塗料の全面施工と部分施工では遮熱効果が異なります。部分施工では未塗装部分が影響し遮熱効果が得られない可能性がありますので、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。

■塗装前の確認

- 改修工事の場合、既存塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、既存塗膜を傷め剥離(塗膜のチヂレ)やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ず確認の上で塗装仕様を決定してください。塗装仕様については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 下地にシリコン樹脂塗料やフッ素樹脂塗料、無機塗料、親水コート、光触媒塗料が施工されている場合、付着性などの点より注意が必要です。最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 下地の種類が不明な場合は、下塗り塗料の選定および試験施工を行ってください。
- 塗り替え施工で既存塗膜が弾性スタッコ、弾性リシン、アクリルトップの場合、既存塗膜がすでに乾いている、また既存塗膜の表面にピンホール(細かな気泡)が生じている場合があります。その場合は既存塗膜を完全に除去してください(とくに部材が軽量モルタル、ALCパネル、窯業系サイディング、発砲ウレタンなどを使用した断熱工法の外壁の場合は注意が必要です)。
- 既存塗膜が高弾性塗膜の場合は適用できない場合があります。

■下地調整

- 高圧水洗浄やスプレー施工では、周辺の状況をよく確認し養生を行ってください。
- 高圧水洗浄は圧力とノズル距離を正しくとり、確実に行ってください。
- 高圧水洗浄が使用できない場合はホースで水を流しながらブラシなどを使用し、ホコリ、かび類、藻類を完全に除去してください。
- 水洗い後1日以上乾燥させてください。各工程では、雨や露などで濡れている場合は十分に乾燥させてから施工してください。
- コンクリートやモルタルの表面は十分に乾燥させてください(表面含水率10%以下(ケツト科学社製CH-2型)または5%

■取り扱い上の注意事項

- 万一、火災が発生した場合ABC粉末消火器など適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないようにし、有機溶剤の蒸気を吸わないよう必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋、および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器(取っ手を含む)はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。
- 目に入った場合は多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。

- 以下(ケツト科学社製Hi500シリーズ:コンクリートレンジ)。
- 油分が付着している場合は中性洗剤などを使用し、除去してください。
- 洗浄後、外壁の劣化、ひび割れ、サイディングボードの釘浮きなどの確認を行い、適切に処理してください。
- シーリング材の劣化などがある場合には打ち替えを行ってください。
- 粗面やALC面、多孔質下地など、下地に問題がある場合は「NTカチオンシリーズ」などを使用して、適切に下地調整を行ってください。
- 表面のチョーキング、ゴミ、かび類、藻類、レイタンスなどは除去し、ひび割れ、目違い、ジャンカ、コールドジョイントなどは適切な下地処理を行ってください。
- 既存塗膜が無く、金属面が出ている場合は、当社指定の金属用プライマーを使用してください。
- 発錆部は、ワイヤーブラシやサンドペーパー、電動工具などで入念にサビを除去し、時間を空けずに金属用プライマーを塗り塗りしてください。
- 下地の状態により仕上がり感が変わります。下地の状態をなるべく均一にしてください。また、既存塗膜の剥離部は、なるべく既存塗膜の塗装仕様でパターン合わせを行ってください。
- 塗装作業について
- 標準塗装仕様は、あくまで「標準」的な仕様であり、下地の状態、形状、施工条件、気象条件などにより使用量や可使時間などに多少幅を生じることがあります。
- 施工日時から施工後翌日までには降雨、降雪、結露が予想される場合や気温5℃以下、湿度80%以上での施工は避けてください。塗膜が未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると不具合の原因につながります。特に冬季は、乾燥に時間がかかりますので乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- 結露の発生する恐れのある場所や換気が不十分な場所での施工は避けてください。
- 塗料は必ず塗装仕様書の配合比で調合し、十分に攪拌してから施工してください。また、他の塗料との混合やアルコールや水の混入は絶対に行わないでください。
- 塗料を使用する前や小分けする場合には、十分に攪拌して均一な状態にしてから計量し、ご使用ください。パラサーモ外壁用シリーズは特殊な顔料を使用しているため、一般外壁塗料と比較して塗料表面に色が浮きやすい傾向にあります。
- パラサーモ外壁用U、パラサーモ外壁用Si、パラサーモ外壁用F、「エポールプライマー」、エポール#1プライマーNの希釈は「NT塗料用シンナーA」をご使用ください。
- 塗料の希釈率は試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。希釈率は色や施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- 上塗り塗料の色相は塗りは2回塗りは隠れない場合があります。その場合は塗り回数を増やしてください。
- 塗装仕様書の使用量を守って施工してください。遮熱性能や耐候性などの塗膜物性が低下します。
- 上塗りの希釈率や材料の使用量が多すぎたり、少なすぎたり

- しても、色相が変化して見えることがあります。特に上塗り1回では使用量が足りず、色相が変化して見えます。同様に希釈剤の希釈量や使用量が施工部位により変わると色相が変化して見えることがあります。
- 風化面、吸い込みの多い下地の場合は、専用のプライマーなどを増し塗りしてください。
- 夏季、炎天下でエアレスホース内に塗料をいれたまま放置しますと、つまりの原因となります。
- 各工程において、硬化が不十分な状態で施工すると再溶解やリフティング(塗膜のチヂレ)が発生する場合があります。
- 調整剤は塗り継ぎや補修などでムラが出やすくなりますので、面を区切って施工してください。
- 調整剤は艶消し剤が沈降している場合や塗料が分離している場合は、攪拌機を用い充分に攪拌し、均一な状態にして施工してください。
- 調整剤は下地の状態や膜厚、希釈量、施工間隔により、ムラが生じたり、実際に希望している艶と異なる場合があります。必ず艶を確認し、施工条件はなるべく同一条件で施工してください。
- 3~5分艶あり仕上げを行う場合、上塗り1回目に「艶あり」上塗りし、2回目に「3~5分艶あり」を使用して施工してください。
- ローラーや刷毛、スプレーなど施工方法が混在する場合、色相や仕上に差がでることがあります。特に補修塗りの際は注意し、仕上りを確認した上で希釈量等を決め最小範囲で行ってください(目立ちにくくなるように施工してください)。
- ローラー塗りの場合、ローラー目は同一方向に揃えるように仕上げてください。ローラー目の方向により色や仕上りが異なって見える場合があります。
- 本製品は汚れが付きにくいものですが、建物の構造や部位、仕上げ、環境条件などによっては本来の性能が発揮されない場合があります。
- 著しくかびや藻の発生しやすい環境下では防かび、防藻効果が十分に発揮されない場合があります。
- シーリングへの施工は塗膜の汚染や剥離、収縮割れが発生する場合がありますので極力行わないでください。やむを得ず使用する場合は、最寄りの営業所までお問い合わせください。
- 可塑剤が多く含まれる塩ビ鋼板、プラスチック、ゴムパッキンなどへの直接施工は避けてください。どうしてもFRP、塩ビに直接施工する場合は、下地調整で目直しを行ってください。特に、塩ビについては、非常に密着し難い場合がありますので、あらかじめ試験施工を行ってください。
- 使用器具は、使用後すみやかにラッカーシンナー(もしくはウレタンシンナー、アクリルシンナー)で洗浄してください。
- 施工時はご使用になるプライマーの「エポールプライマー」「エポール浸透遮熱プライマー」「シルビアサーフ」などの個別カタログも合わせてよくお読みになり正しくご使用ください。ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 塗料は用途・用法を守り、上述カタログの仕様や注意事項をよくお読みになり正しくご使用ください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

■お問い合わせ先

- 東京営業所 〒114-8584 東京都北区王子3-23-2 ☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
- 神奈川営業所 〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10 ☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
- 中部営業所 〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12 ☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
- 大阪営業所 〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12 ☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
- 中四国営業所 〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13 ☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
- 九州営業所 〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726 ☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <https://www. NTTORYO.CO.JP/>

塗装仕様等、使い方の詳細情報は
こちらをご確認ください。
設計・工事監理者および工事請負
者は、必ずご確認ください。

